

ぞうさん広場

vol.13
2017秋号



インタビュー
特集

小児のアレルギー疾患における予防と管理 知っておきたい 小児アレルギーのこと



看護師の活動紹介
小児救急看護認定看護師

子どもにやさしい病院
小児病棟ってこんなところ!

小児疾患センターの
年間イベントスケジュール
イベントもりだくさん!

がんセンター特集
禁煙への取り組み

最近の出来事
第2回登録医総会を開催しました!

登録医紹介
こんにちは赤ちゃん
健康食のススメ

小児疾患
センター
特集

こんにちは赤ちゃん/
当センターでたくさんの赤ちゃんが生まれています!



双葉(ふたば)ちゃん
平成29年5月12日生

♥welcome♥

大好きなふうちゃん♡産まれてきてくれてありがとう!ふうちゃんはみんなを幸せにしてくれるね!心も身体も元気に!笑顔いっぱいスクスク育ってね♡



大晴(たいせい)くん
平成29年5月19日生

♥welcome♥

みんなに愛されて、大ちゃんの周りにはいつも笑顔でいっぱいです。生まれてきてくれてありがとう。大ちゃん大好きだよ♡



幸ノ介(こうのすけ)くん
平成29年5月25日生

♥welcome♥

望みの第二子は3,798g超にも関わらず、わずか3分程での出生にみんなが驚きましたよ。これから、二つ上のお兄ちゃんと一緒に仲良くスクスク大きくなってね。



奏乃(かなの)ちゃん
平成29年5月25日生

♥welcome♥

お兄ちゃんもお父さん、お母さんもみんな奏乃に会えるのを楽しみにしていたよ。生まれてきてくれて、ありがとう。

健康食のススメ

苦手な野菜も
へっちゃら!

じゃがもち

体の調子を整えるためにも野菜の摂取は大切です。その役割を果たしてくれるのがビタミンやミネラルですが、野菜が苦手な方も多いのでは?今回は野菜を混ぜ込んだ「じゃがもち」を紹介します。野菜嫌いなお子さんに試してみてもいいかもしれません。

ビタミン・ミネラル
たっぷり!

栄養価(1人分)
エネルギー 84kcal
塩分 0.1g



2人分計4個	材料	分量	備考
	じゃがいも	150g(小2個)	塩こしょう 少々
	人参	10g	サラダ油 2g(小さじ1/2)
	青ねぎ	10g	焼き海苔 4枚
	とろけるチーズ	20g(1枚)	ケチャップや お好みで
	片栗粉	3g(小さじ1)	マヨネーズ、ポン酢

【作り方】

- じゃがいもは皮を剥いて4等分ぐらいの大きさに切り、人参も皮を剥いておく。ラップをして600Wで3分加熱し、竹串がすっと通るまで柔らかくする。
- ①の人参と、青ねぎはみじん切りにしておく。
- ①のじゃがいもをボールに入れてマッシュし、②・片栗粉・塩こしょうを混ぜ込み、4等分に分ける。とろけるチーズを1/4に切り分けて、チーズが中央になるように小判型に成形する。
- フライパンに油をひいて、両面に焼き色が付くまで焼く。
- 焼き海苔を巻いて皿に盛り付ける。(お好みでケチャップやマヨネーズ、ポン酢を添える)

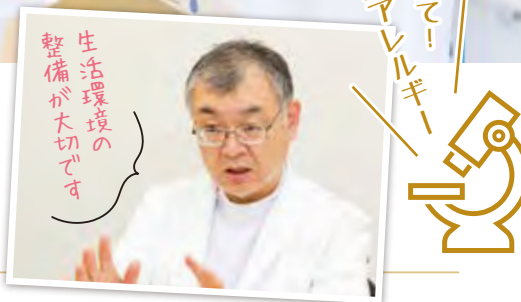
栄養管理科 小林 竜也

小児のアレルギー疾患における予防と管理 知っておきたい 小児アレルギーのこと

アレルギー疾患のほとんどが小児期に発症します。だからこそ小児アレルギーの正しい理解が大切です。今回は小児ぜんそくと食物アレルギーについて、話をお伺いしました。



右から：
小児科 部長 岡村 隆行 医師
小児科 医長 高柳 恭子 医師
小児科 副部長 川上 展弘 医師



教えて！
小児アレルギー

近年のアレルギー疾患の治療方針は？

ぜんそくに関しては、発作が起きてからの治療ではなく、発作を起こさないようにステロイド吸入でコントロールすることが重要とされています。また、各病院が独自の治療をするのではなく、どの病院を受診しても患者さんが均一な治療を受けられるようにガイドラインに従って治療することになっています。そのガイドラインに掲載されているのがステロイドをきちんと使った治療方法で、今はほとんどの医療機関で治療に使用されています。

治療における堺市立総合医療センターの役割は？

当院は急性期病院ですのでぜんそくの発作で救急受診される患者さんも多く診療しています。その急性期の部分をしっかりと担うことが当院の重要な役割だと思っています。また、検査もかなり充実していますので、ある程度の治療方針を当院で決めて、普段の治療はかかりつけの診療所です。ただ、早くという病診連携を進めていきたいと考えています。

発作が起きたら…？

すぐに受診してください。発作を起こせば起こすほど肺はダメージを受けますので、大人になつてからの呼吸機能の低下に繋がります。だからこそ、小児期に発作を起こさないように処方された薬をしっかりと飲むことが大切です。



食物アレルギーに 予防法はありますか？

湿疹の治療が不十分だと食物アレルギーを誘発する可能性があります。例えば湿疹があつた箇所にミルクや離乳食を食べこぼした場合、そこからタンパクが入りアレルギーを発症するというケースがありますので、しっかりとしたスキンケアが食物アレルギーの予防になります。また、食物アレルギーを疑う症状がみられた場合は、血液検査だけで判断するのではなく、きちんとした原因を調べることが必要です。当院では、医師の立ち会いのもと実際に食べてみて反応がおこるかどうかを診る経口負荷試験というテストを行っています。

スキンケアは
湿疹の予防にも
なります



生後早い時期に卵を食べると卵アレルギーを発症するって本当…？

昔はそうのように言われていましたが、現在では卵を食べさせる時期を特別遅らせる必要はないと、小児科学会で発表されています。だからと言って、早い時期からたくさん食べさせて良いというわけではありませんので、健診などで医師と相談しながら食べさせるようにしましょう。

力を入れておられる 小児救急については？

かつて堺市の多くの医療機関で、小児の夜間外来や救急搬送を受け入れていましたが、当院を含め徐々にそれが難しくなり受け入れを制限せざるを得なくなりました。その結果、堺市内で小児の救急搬送の受け入れができないという状況となったため、市立病院として小児救急をきちんと引き受けるべきだと思われました。当時、

小児疾患センター としての取り組みは？

当院は新生児医療にも力を入れていましたが、新生児を診ることのできる病院は他にもありましたので、今、堺市で必要とされている救急を主軸にしてこうと決断しました。その考えは今も変わらず、24時間365日、小児科の医師と看護師が常駐して救急搬送を断らないことを原則としています。

安心・安全な医療を提供できるように、お子さんが救急外来に 来られた場合は必ず小児科の看護師が対応するようにしています。さらに、救急外来だけでなく、ICUや外来、病棟まですべて小児科の医師と小児看護を熟知した看護師が診るようになっています。特に救急外来には虐待を受けた、または疑うようなお子さんが運ばれてくることありますので、普段から子どもと接している小児科看護師が必ず確認しに行くようにしています。また、当院は子どもと一緒に遊んだり、

地域の医療機関や皆さん にメッセージをどうぞ。

開業医の先生がお困りの際は当院で対応するという繋がりを作っていききたいと思っております。ご紹介していただいた患者さんは適切に対応いたします。また、院内学級やプレイルームを備えるなど、患者さんが安心して診療を受けていただける病院づくりにも力を入れています。



検査による
診断で
正しい治療を

堺市立総合医療センターの小児病棟ってこんなところ！ 子どもにやさしい病院

当院の小児病棟で治療に取り組む子どもたちが
安らぎや楽しみを感じることができるように、さまざまな取り組みをしています！



ホスピタルアート

小児病棟内の壁や天井、扉には魚や花などのイラストがたくさん。無機質になりがちな病棟内が明るい雰囲気！



ジオラマ

国際ソロプチミスト大阪-南陵より、ご寄贈いただいた鉄道ジオラマ。阪堺電車がモデルになっており、スタッフステーションの周りに配置されています。

病室を訪問して手品などを披露し、遊びや関わりを通して子どもたちの療養をサポート。月に1度、NPO法人日本クリクラウン協会より訪問していただいております。市立病院としては全国でも珍しい取り組みです。

クリクラウン

※クリクラウンとは、病院の「クリニック」と道化師の「クラウン」を合わせた造語です。



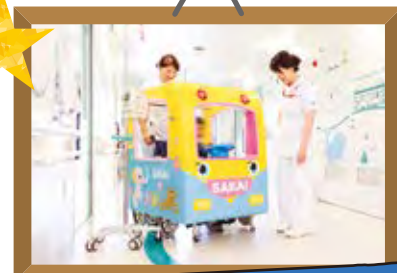
わくわくルーム(プレイルーム)

絵本やおもちゃ、DVDなどがあり、院内保育士が年齢層に応じた遊びを提供しており、絵本の読み聞かせなども行っています。



院内保育士

当院の小児病棟は30床あり、5名の保育士が在籍しています。日中2名、夜間1名で24時間体制の保育を行っています。また、小児病棟では年間を通してさまざまなイベントを実施しており、その企画や計画はすべて保育士が行っています！



車いす「特急SAKAI号」

主に手術室に向かうときに、この車いすに乗って移動します。ホスピタルアートとも連動しており、子どもたちが楽しめる工夫をしています。

看護師の活動紹介



子どもの権利と尊厳を
守る医療を！

「小児救急看護認定看護師」



当院には、公益社団法人日本看護協会の認定を受けた2名の小児救急看護認定看護師が在籍しており、小児病棟や小児外来、救急外来で勤務しています。

新病院移転とともに堺市で唯一の救命救急センターを開設したことによって、重症な子どもの受け入れが可能となり、平成28年度の小児救急受入件数は内科系約1,700件、外科系約1,800件でした。

今回は、「小児救急看護認定看護師」の活動についてご紹介します。

子どもに起こりやすい病気や事故、成長発達を知っておくことは、保護者にとって重要です。そして、思いがけない病気や事故に対する予防や適切な対応を行うことは、子どもの健康を守ることに繋がります。当院では、不慮の事故による受診が増加しています。さらに、少子化、核家族化により子どもを取り巻く環境が変化したことで、いつ受診するか判断や育児に不安を抱える家族も増えています。私たち小児救急看護認定看護師は、多職種とも連携を図りながら、子どもの成長発達に応じたご家族の支援を心がけ「子どもの最善」「子どもの権利擁護」を最優先に活動しています。

小児救急看護認定看護師の活動

- ★ ご家族に子どものケアの方法をアドバイスするなど、自宅へ帰った時の対処に困らないよう支援し、ホームケアへとつなげています。
- ★ 急な処置が必要になった子どもに対して、子どもの権利(※1)に基づきプレパレーション(※2)やディストラクション(※3)を実践しています。
- ★ 救急外来では、大人と子どもの患者が混在するため、小児救急に対して不安や苦手意識を感じている医療者へのアドバイスや相談にのったり、小児救急に関する学習会やディスカッションを開催したりしています。

小児救急看護認定看護師は、子どもやご家族に対して安心・安全を考えた関わりができるように取り組み、そして、地域の皆さんや他施設の看護師ともつながりを持ちながら活動し、子どもが健やかに成長・発達できるよう支援しています。

小児救急看護認定看護師 山口 智子
小児救急看護認定看護師 笠原 健

※1 医療処置における子どもの権利
〔「蝦名美智子(前札幌医科大学):検査・処置のプレパレーションツール2014版」より一部引用〕

- 何が起こるのかを話してもらい権利
- 「どのように」「なぜ」を尋ねる権利
- わかるように答えてもらい権利
- 不安な時に、家族にそばにいてもらえる権利
- がんばったことを伝えられる権利

※2 医療を受ける前に、子どもに対しこれから起こることや何故それをするのかを子どもが理解できる方法で説明し、さまざまな不安や恐怖を感じないようにすること

※3 処置中に気を紛らわせる遊びや集中できるように介入のこと



イベント
もりだくさん!

小児疾患センターの年間イベントスケジュール

堺市立総合医療センターの小児疾患センターでは、年間を通してたくさんのイベントを開催しています。
子どもたちのための取り組みをご紹介します!



マントや帽子などで仮装し「ハロウィン★ビンゴ」を楽しみました。お菓子シールをもらって大満足(^o^)/



ハロウィンイベント



PL花火鑑賞会



小児科病棟のバルコニーからご家族と一緒に花火を見ました!

レッドノーズデイ

チャリティイベント「RED NOSE DAY」に参加。みんなの鼻が真っ赤に!



イースターイベント



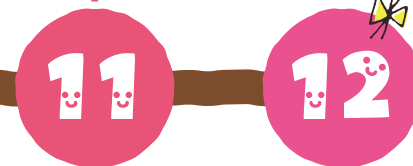
イースターバニーにちなんで、ウサギの耳を制作!

ひなまつり



お雛様、お内裏様の冠を自分たちで飾り付けてイベントに参加♪

絵画作品展



クリスマス会

手品やクリスマスのお話シアターを楽しみました。エバちゃんがサンタクロースに変身して登場!



おやつ会

みんなでわたがし作りに挑戦。上手にできたかな?

夏祭り



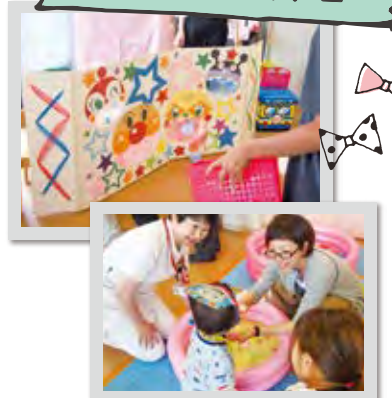
自分で作ったうちわを持って、音楽に合わせて盆踊り♪

ミニ緑日

いろいろな出店に興味津々。ご家族も参加して大盛況!



七夕会&緑日



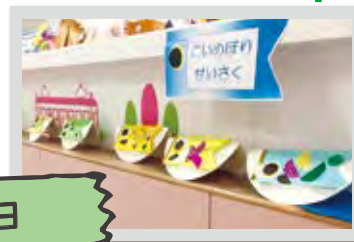
手品や紙人形劇、ヨーヨーつりや的当てなどお祭り気分たっぷり★

おやつ会

自分たちでおやつを作って食べたよ★

子どもたちが製作したこいのぼりでこどもの日をお祝い♪

こどもの日



節分



福豆に見立てたボールで“豆まき遊び”をして鬼さんと一緒に遊びました!

当院の登録医の先生をご紹介します



中区土塔町
かなざきこども
クリニック
金崎 光治 院長



西区浜寺南町
しまキッズ
クリニック
島雅昭 院長



西区上野芝向ヶ丘町
いしいこども
クリニック
石井 武文 院長



西区上
しまたに
小児科
島谷 昌孝 院長

◆ **私の診療モットー**
患者さんやご家族の負担を減らすためにも、不要不急の受診はなるべく避けようとお勧めしています。また、近年は予防接種がかなり進んできており、抗生物質を使用しなくても治る患者さんが多くなってきました。しかしながら、不安なことや子育ての悩みはあると思いますので、ご家族が抱え込みすぎないように、きちんとお話を聞くことを心がけています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域のかかりつけ医として、スタッフ一同でお子さんの成長をサポートしたいと考えています。気になることがありましたら、お気軽に足を運んでいただければと思います。

◆ **当院の特長**
当院は風邪などの急性疾患だけでなく、アレルギー疾患や最近増えてきている発達障害の患者さんにも対応できるように、栄養士や臨床心理士といった多職種スタッフとともに診療にあたっており、また、保育士による育児相談なども実施しております。診療については、待ち時間の短縮や院内感染予防のために、診察までの時間をインターネットで確認していただけるシステムを導入しています。

◆ **私の診療モットー**
患者さんやご家族の負担を減らすためにも、不要不急の受診はなるべく避けようとお勧めしています。また、近年は予防接種がかなり進んできており、抗生物質を使用しなくても治る患者さんが多くなってきました。しかしながら、不安なことや子育ての悩みはあると思いますので、ご家族が抱え込みすぎないように、きちんとお話を聞くことを心がけています。

◆ **当院の特長**
私は堺市立総合医療センターの前身である市立堺病院で以前、外来を担当していました。このため旧知の先生も多く、連携や紹介がしやすいというのも、こちらで開院した理由の一つです。当院は感染症の患者さんが多く来院されますので、隔離室を2室設けて院内感染をできるだけ防ぐようにしています。

◆ **私の診療モットー**
なぜこのような治療や食事療法が必要なのか、その背景をできるだけしっかりと説明するように心がけています。病態を理解することが相互理解を深め、治療の動機付けになります。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんが親しみやすいように敷居の低いクリニックをめざしています。最初に相談していただける場所としてお役に立ちたいと思っていますので、気になることがありましたら遠慮なくご来院ください。

◆ **当院の特長**
開院前、近くに小児科クリニックが少なく困っているという話を聞いていましたので、私自身が産まれた地域で皆さんの役に立ちたいと思い開院しました。間口の広い小児科として、診療だけでなく検査や予防接種にも対応しています。特に予防接種は昼間のご来院が難しいご家族のために、朝や夜にも毎日接種枠を設けています。一般診療については、パソコンやスマートフォンから事前予約や混雑状況の確認などができる予約システムを導入しています。

◆ **私の診療モットー**
しっかりと診断をして、それに応じた治療をすることが大切だと考えています。しばらく様子を見るといっても、検査をして異常があればそれに応じた治療ができますので、必要があればできるだけ検査をするようにしています。また、待ち時間のストレスを少しでも軽減していただきたいという思いから、患者さんやご家族のために、たくさん遊び道具やWi-Fi環境も整えています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんのお役に立ちたいと思っています。気になることがあれば、ご相談だけでもかまいませんので、お気軽にご来院ください。

◆ **当院の特長**
開院前、近くに小児科クリニックが少なく困っているという話を聞いていましたので、私自身が産まれた地域で皆さんの役に立ちたいと思い開院しました。間口の広い小児科として、診療だけでなく検査や予防接種にも対応しています。特に予防接種は昼間のご来院が難しいご家族のために、朝や夜にも毎日接種枠を設けています。一般診療については、パソコンやスマートフォンから事前予約や混雑状況の確認などができる予約システムを導入しています。

◆ **私の診療モットー**
しっかりと診断をして、それに応じた治療をすることが大切だと考えています。しばらく様子を見るといっても、検査をして異常があればそれに応じた治療ができますので、必要があればできるだけ検査をするようにしています。また、待ち時間のストレスを少しでも軽減していただきたいという思いから、患者さんやご家族のために、たくさん遊び道具やWi-Fi環境も整えています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんのお役に立ちたいと思っています。気になることがあれば、ご相談だけでもかまいませんので、お気軽にご来院ください。

◆ **当院の特長**
開院前、近くに小児科クリニックが少なく困っているという話を聞いていましたので、私自身が産まれた地域で皆さんの役に立ちたいと思い開院しました。間口の広い小児科として、診療だけでなく検査や予防接種にも対応しています。特に予防接種は昼間のご来院が難しいご家族のために、朝や夜にも毎日接種枠を設けています。一般診療については、パソコンやスマートフォンから事前予約や混雑状況の確認などができる予約システムを導入しています。

◆ **私の診療モットー**
しっかりと診断をして、それに応じた治療をすることが大切だと考えています。しばらく様子を見るといっても、検査をして異常があればそれに応じた治療ができますので、必要があればできるだけ検査をするようにしています。また、待ち時間のストレスを少しでも軽減していただきたいという思いから、患者さんやご家族のために、たくさん遊び道具やWi-Fi環境も整えています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんのお役に立ちたいと思っています。気になることがあれば、ご相談だけでもかまいませんので、お気軽にご来院ください。

◆ **当院の特長**
当院は、小児疾患のなかでも特にアレルギー疾患に力を入れており、主にアトピー性皮膚炎や食物アレルギー、気管支ぜんそくを中心に診療しています。診療を通して患者さんやご家族にアレルギーへの理解を深めていただき、丁寧な説明で不安を取り除いていながら、子どもたちの成長を支援したいと考えています。

◆ **私の診療モットー**
ゆつくりと時間をかけてお話を聞くことを心がけています。それは、ミスをしないという意味でも大事ですが、やはり子どものアレルギーに対して不安になられているご家族が多いので、さまざまな不安を解消するために、じっくりとお話を聞くことを大切にしています。例えば食物アレルギーの場合、リスクも含めてきちんと説明して納得していただいた上で、少しずつ食べていくという治療をすることがあります。一言で「大丈夫」と言っても不安は拭きませんから、きちんとお話をするようにしています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
薬を処方するだけでなくお話をきちんと聞いて、安心・納得していただくことが一番だと考えています。話をするだけでも安心できることでもあると思いますので、いつでもお気軽にご来院ください。

◆ **当院の特長**
開院前、近くに小児科クリニックが少なく困っているという話を聞いていましたので、私自身が産まれた地域で皆さんの役に立ちたいと思い開院しました。間口の広い小児科として、診療だけでなく検査や予防接種にも対応しています。特に予防接種は昼間のご来院が難しいご家族のために、朝や夜にも毎日接種枠を設けています。一般診療については、パソコンやスマートフォンから事前予約や混雑状況の確認などができる予約システムを導入しています。

◆ **私の診療モットー**
しっかりと診断をして、それに応じた治療をすることが大切だと考えています。しばらく様子を見るといっても、検査をして異常があればそれに応じた治療ができますので、必要があればできるだけ検査をするようにしています。また、待ち時間のストレスを少しでも軽減していただきたいという思いから、患者さんやご家族のために、たくさん遊び道具やWi-Fi環境も整えています。

◆ **地域の皆さんへのメッセージ**
地域の皆さんのお役に立ちたいと思っています。気になることがあれば、ご相談だけでもかまいませんので、お気軽にご来院ください。



診療科目 / 小児科、アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
14:00~15:30	○	△	△	△	△	△	△
16:15~19:15	○	○	○	○	○	○	△

 △乳児検診・予防接種(予約制)

堺市中区土塔町3327番地
 ★北北高速鉄道線「深井駅」より徒歩約15分
TEL:072-289-3100
<http://www.kanazaki-kids.com>



診療科目 / 小児科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
16:30~19:00	○	○	○	○	○	○	△

堺市西区浜寺南町3丁2-1 浜寺メディカルスクエア2F
 ★南海本線「浜寺公園駅」より徒歩約10分
TEL:072-262-8788
<http://www.shima-kids.com>



診療科目 / 小児科、アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
16:00~19:00	○	○	○	○	○	○	△

 △土曜の午後は18:00まで

堺市西区上野芝向ヶ丘町4丁24-26
 ★JR阪和線「上野芝駅」より徒歩約10分
TEL:072-270-7415
<http://www.ishii-kodomo-clinic.net/>



診療科目 / 小児科、アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
14:00~15:00	○	△	△	△	△	△	△
16:00~19:00	○	○	○	○	○	○	△

 △予防接種(要予約)

堺市西区上714-1 朝日医療ビル南4F
 ★JR阪和線「富木駅」より徒歩約10分
TEL:072-260-2111
<http://www.shimatani-syounika.jp>

地域医療連携を深め、よりよい医療を提供 第2回 登録医総会を開催しました!

平成29年7月15日(土)ホテル・アゴーラリージェンシー堺にて昨年に引き続き、当院医師と登録医の更なる地域医療連携を深めるために『第2回堺市立総合医療センター登録医総会』を開催しました。日頃より患者さんの紹介や逆紹介でお世話になっている87名の「地域のかかりつけ医」である登録医の先生方にご出席いただきました。

最近の出来事

登録医総会と情報交換会を開催しました!

当院では、地域医療連携を推進しています。地域医療連携とは、厚生労働省が推奨する事業で、当院のような高度専門医療や救急医療を提供する急性期病院と、患者さんの身近にある地域のかかりつけ医、あるいはリハビリや慢性期医療を専門とする病院が、それぞれの持っている機能を有効活用することにより、地域の医療機関が円滑な連携を図り、患者さんが地域で切れ目のない最適な医療を受けられるようになります。前年と同様に、二部形式で開催し、第一部の講演会で当院の診療機能を紹介し、第二部の情報交換会で医師同士顔の見える連携作りを行いました。

第一部「登録医総会」

花房院長より、当院が今年度より取り組んでいるセンター化構想についての講演をかきりに、小田医院小田真院長より「地域医療機関から堺市立総合医療センターに期待すること」をテーマにご講演いただきました。

その後、当院の医師より「2025年に向けた堺市立総合医療センターの挑戦」、「当院の目指すがん診療」、「当院の救急医療の現状」というテーマでそれぞれ講演いたしました。



第二部「情報交換会」

会場を移して、日頃よりお世話になっている登録医の先生方と当院各科医師が日頃の病診連携について情報交換を行なう場を設けました。開会に先駆けて、竹山修身 堺市長、西川正治 堺市医師会副会長より御祝辞をいただきました。今年度は、当院の各センター及び診療科によるポスターセッションを同時開催し、よりコミュニケーションを深めるように工夫しました。開会後は当院医師と登録医の先生方のコミュニケーションが活発になったのは勿論ですが、登録医の先生方同士のコミュニケーションの場となりました。



堺市立総合医療センターでは、現在堺市内市外を含め、約800名の地域のかかりつけ医の先生方に登録医となっており、今回行った登録医総会やそれ以外の活動で、これまで以上に登録医の先生方との地域医療連携を深めていき、地域全体で市民の健康を支えていけるよう努めて参ります。



敷地内禁煙

当院は、敷地内完全禁煙としており、出入り口や近隣道路も含めて禁煙をお願いしております。



周術期の禁煙の推進

喫煙は周術期^{※2}の肺炎や無気肺^{※3}の合併症発生のリスクが高まり、創傷治癒の遅延を生じることが明らかとなっています。2010年より周術期の禁煙支援を強化してきました。それでも入院直前まで喫煙をされていた患者さんが術中や術後に呼吸不全を起こして、集中治療や気管切開を要するなど重症化した例があります。

- 当院の方針
- 全身麻酔手術の実施に必要な条件・・・術前少なくとも3週間の完全禁煙
 - ニコチン禁断症状が強い患者さん・・・入院前に禁煙外来の受診

患者さんとともに周術期の喫煙のリスクを共有し、禁煙の必要性を説明してご理解いただいています。また、2015年に日本麻酔科学会により示された周術期禁煙ガイドラインでも、「受動喫煙は能動喫煙と同様に手術患者に悪影響を及ぼす」と示されており、特に合併症リスクの高い患者さんの場合は、ご家族の協力も必要になります。

- ※2 手術中及び手術前・手術後も含めた期間
- ※3 気管支が異物など様々な原因でふさがれ、末梢の肺に空気が入らなくなってしまった状態

禁煙外来受診

禁煙外来は、呼吸器内科の医師2名と外来看護師1名が主に担当し、いずれも日本禁煙学会禁煙専門・認定指導者の認定を受けています。専門スタッフが患者さんに合わせた支援を行うことで、8割以上の禁煙成功の成績を維持しています。保険適応が若年者にも広がったことで、より早期からの禁煙を目指していただきたいと願っています。ただし、禁煙外来開始後の入院中の禁煙治療は保険適応になりますが、入院中に禁煙治療を開始した場合は保険適応にならないので気をつけてください。



禁煙外来のメインスタッフ▲

院内掲示

禁煙に関するニュースや疾患との関連、禁煙の大切さなどのポスターを掲示しています。また、卒煙できた方からのメッセージも掲示しています。

禁煙支援チーム活動 “禁煙支援ポケットガイド”

がんの再発予防にも禁煙が重要です。禁煙支援チームで看護師が携帯して利用できるポケットガイドを作成し、退院後も禁煙の継続ができるように援助しています。



がんセンター「禁煙への取り組み」特集

禁煙の重要性

喫煙は多くのがんの原因となりますが、喫煙がなくなれば日本人のがんの発生は約半分に減少するとも言われています。喫煙による疾病はがん以外にも慢性閉塞性肺疾患(COPD^{※1})や心血管疾患、脳卒中、糖尿病などが含まれています。また、受動喫煙による発症も明らかとなっており、疾病予防や治療経過の改善として禁煙は非常に重要です。そこで今回は、当院で実施している禁煙への取り組みをご紹介します。

※1 タバコなどの有害物質を長期間吸入することで息切れが生じる肺の慢性疾患